

38 ヴィーナス2態

《ウルビーノのヴィーナス》と《眠れるヴィーナス》

根本的相違点

2020

真鍋友範



《眠れるヴィーナス》 1510
ジョルジョーネ



《ウルビーノのヴィーナス》 1538
ティツィアーノ

1 ジョルジョーネとティツィアーノの根本的な相違点とは

この観点で私は一度論考して結論に達している。非常にわかりやすい両者の判別法がある。

その分類とは、【古代神話や物語の中の偶像としてのヴィーナス】を描いているか、あるいは【現実の裸婦像】であるかの違いだ。

前者に相当するのは、ジョルジョーネの《眠れるヴィーナス》、後者に属するのはティツィアーノの《ウルビーノのヴィーナス》となる。

彫刻においては、既にギリシャ、ローマ彫刻でのヴィーナスの前例があったが、絵画においては、この《眠れるヴィーナス》を描いたジョルジョーネが初期例の一つなのだ。(実際はポッティチェリが描いたヴィーナスの誕生が最初の例だろう。)

詳細に見ると、それほど写実的な描き方ではない。

容易に判断できるが、まるでマニエリスム期の人体のように、人体比が異様だ。頭部が異常に小さく、現実の人体には見えないのだ。

これはジョルジョーネのデッサン力の未熟さではなく、モデルを実際には使

わなないで、イメージ上で理想的に再生された人体表現であることが、その理由だ。

さらに、この描き方と同列にあるのが、ボッティチェリの《ヴィーナスの誕生》だ。



《ヴィーナスの誕生》ボッティチェリ 1483

この場合も、見事に理想化された人体像であり、首の長さなど見ると、実際にモデルを使って人体を写実した人物像ではない。

ジョルジョーネとボッティチェリのヴィーナスの比較上、両者に共通しているのは、モデルを使わない人体描写である点だ。そうすることで生まれるメッセージは、【地上界の女性を描いたのではなきない、という概念】だ。

一方、ティツィアーノの《ウルビーノのヴィーナス》は、依頼に基づいた作品だ。つまり、最初から【特定のモデルが意識されている】のだ。それゆえに、現実的、写実的な表現であって、前者の2題とは区別されなければならない作品だ。

両者の特徴を、さらに詳しく見よう。

《眠れるヴィーナス》の背景は、かなり特徴的だ。

ヴィーナスの背景が【田園風景】なのだ。屋外空間でヴィーナスが横たわり眠っているのだろうか。

実は、【ジョルジョーネ絵画において、背景は特別な意味を持っている。】

言い換えると、【ジョルジョーネは、背景に特別な意味を与えている。】

多くのジョルジョーネ作品に共通している点は、【背景を田園風景として人物を描いた場合、前景は、現実の風景ではない】、という法則だ。

例えば、参考に提示したジョルジョーネの後年の作品は、全て【追悼画】だが、ジョルジョーネの場合は、前景に描いた場面に存在する対象人物は、全て亡くなった人物かヴィーナスに限られるのだ。



《テンペスタ》

《田園の合奏》

《羊飼いの礼拝》

- * 赤い囲み線は、描画対象の故人であり、追悼対象の人物を示している。
- * 緑の囲み線は、天上界の情景を示す。
- * 黄色い囲み線は、地上界の風景であるとともに、
- * これらの作品は、全て天上界と地上階の合成画面だ。

もう一度言い換えると、ジョルジョーネは、【生きている人物の肖像や、その背景の風景を描くという、常識的な描写習慣を逸脱した、彼固有の独特な表現を編み出していた】のだ。

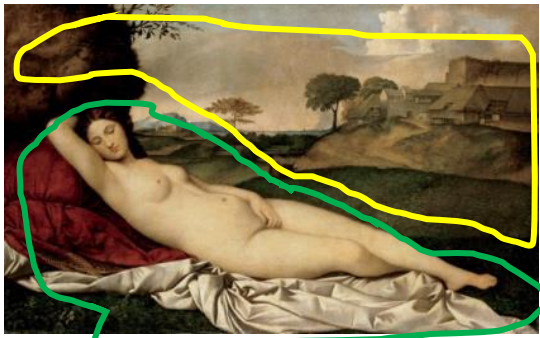
また、ジョルジョーネは明らかに【前景と背景からなる画面合成】を行なっているが、ティツィアーノは、より 一体化した風景として描き、【違和感のある画面合成は行なっていない。】

つまり、ジョルジョーネの場合、【この絵画表現全体が、通常認識されるような、現実的世界の描写世界ではない】ことをしっかり認識する必要があるのだ。

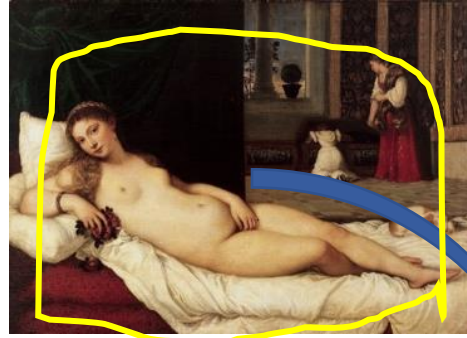
例え背景部分をジョルジョーネ亡き後のティツィアーノ達の弟子の加筆があったとしても、本質的にはこの法則に当てはまるジョルジョーネ作品であることに違いないのだ。

さて、もう一方のティツィアーノの描いた《ウルビーノのヴィーナス》では、背景は前景の現実風景と関連ある室内情景であり、召使が主役のために衣類を探している情景だ。

つまり、ティツィアーノの《ウルビーノのヴィーナス》では、【描かれている前景の人物も、背景も全て現実の描写】なのだ。



天上界の偶像としてのヴィーナス
* 天上界と地上風景の合成画面



地上界の現実の裸婦としてのヴィーナス
* 現実の情景

例えば、《裸のマハ》は、どちらの系譜に属するのだろうか。



《裸のマハ》 ゴヤ

* ティツィアーノの表現系譜であり、ジョルジョーネの表現とは区別される。

勿論、この絵画作品はティツィアーノ様式であり、ジョルジョーネ様式ではない。

必要な点は、裸婦作品と対面したら、まず、この区別をすることだ。

結論として、このジョルジョーネとティツィアーノの二つの描画様式は明らかに異なり、絵画鑑賞においては、この根本的な表現様式の相違を認識していることが重要なのだ。